

研究課題名	術後良性胆管空腸吻合部狭窄に対するバルーン内視鏡併用内視鏡的逆行性胆道膵管造影検査下 Fully covered self-expandable metallic stent 留置術の中長期予後の検討
研究の意義・目的	術後良性の胆管空腸吻合部狭窄 (Hepaticojejunostomy anastomotic stricture : 以下 HJAS) に対し内視鏡治療を選択されることが多いが、治療抵抗性を示す症例が少なくない。近年、鉗子口径の大きい short type のバルーンつき小腸内視鏡 balloon assisted endoscope (BAE) の登場により、Fully covered self-expandable metallic stent (FCSEMS) 留置の良好な短期治療成績が報告されているが、長期成績の報告はまだ十分ではない。そこで、我々は、当院で施行した良性 HJAS に対する BAE 併用内視鏡的逆行性胆道膵管造影検査(BAE-ERCP) 下 FCSEMS 一時的留置術の中長期成績を明らかにし、Plastic stent 留置や Balloon 拡張治療と比較することを目的とします。その結果は以後の HJAS における治療の選択やタイミングに大きく影響すると考えられます。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日-2026年3月31日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2015年1月から2022年9月までに大阪公(市)立大学医学部附属病院消化器内科で、BAE-ERCP を施行した患者さんが対象です。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目	診療の過程で得られた下記の情報、診療記録を使用させてください。 具体的には、病歴、診断名、年齢、性別、Body mass index、併存疾患、既往歴、血液検査データ、Xp・CT・MRI 画像、BAE-ERCP 内容詳細、偶発症、処置日、抜去日、ステント閉塞した日、再発日、原因、再発時処置内容、臨床経過、生死の有無、死因
試料・情報を利用する 者の範囲	この研究は大阪公(市)立大学医学部附属病院消化器内科のみで行います。
試料・情報の管理に ついて責任を有する 者の研究機関の名称	公立大学法人大阪 大阪公立大学医学部附属病院
本研究の 利益相反	利益相反の状況については、研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	研究責任者 大阪公(市)立大学大学院 医学研究科 消化器内科学 丸山 紘嗣 住所 545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3 電話 06-6645-3811 FAX 06-6645-3813 E-mail hiromaruyama99@gmail.com